

# ワークショップ「市民力」

～市民と市議会議員がいっしょに作る政策提案書～  
インプット用資料



# 政策提案リスト

取り組みたいテーマを **4つ** お選びください

## ▪ 政策推進&総務

1. 防災対策について
2. インバウンドについて
3. 市民参画について
4. 人口問題について
5. ゴミの収集について

## ▪ 土木

6. 道路と河川について
7. 駅周辺の活性化について
8. 校区編成について（線路の高架化など）
9. 子供たちの居場所について（公園など）

## ▪ 福祉

10. 医療費について
11. 生活保護制度について
12. 高齢者福祉について

## ▪ 教育

13. いじめ問題について
14. 子育て施策について
15. 校区編成について（区割りなど）
16. 子供たちの居場所について（放課後など）
17. 教育力の向上について

# 1. 防災対策 今までの経緯

政策推進&総務

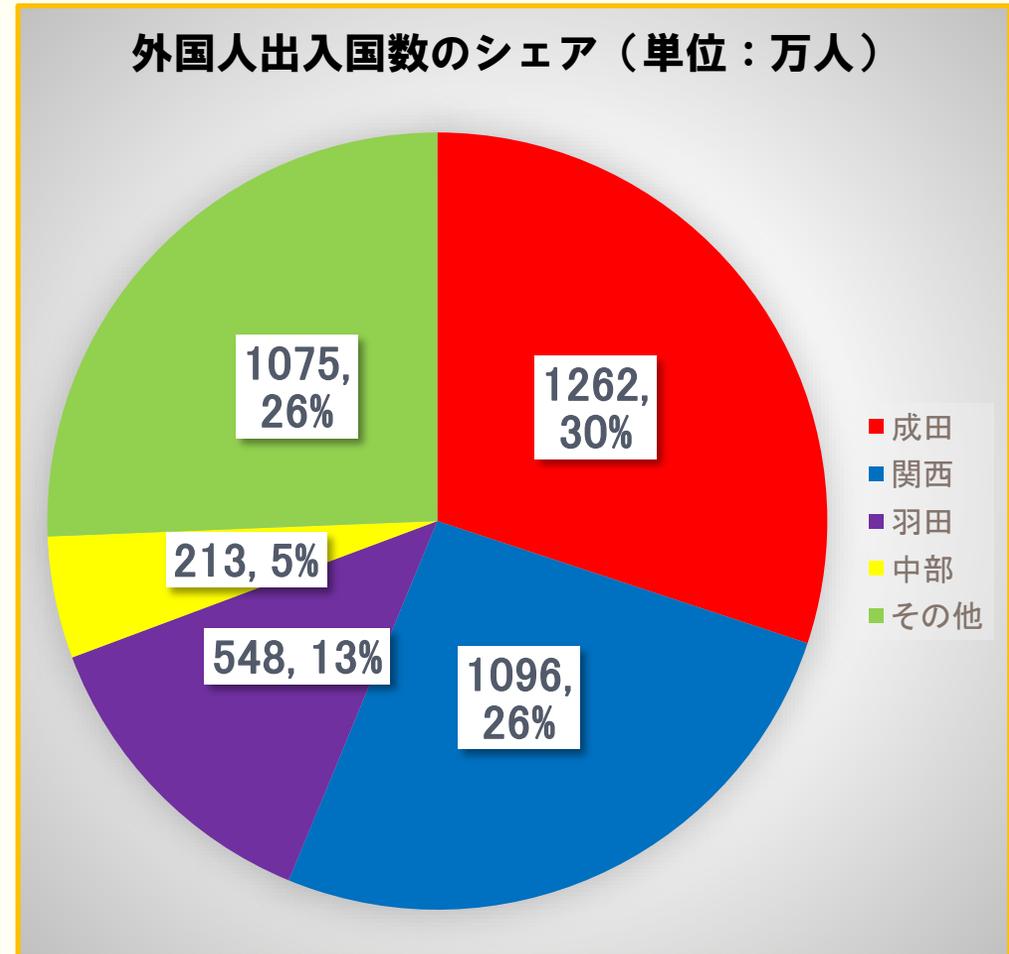
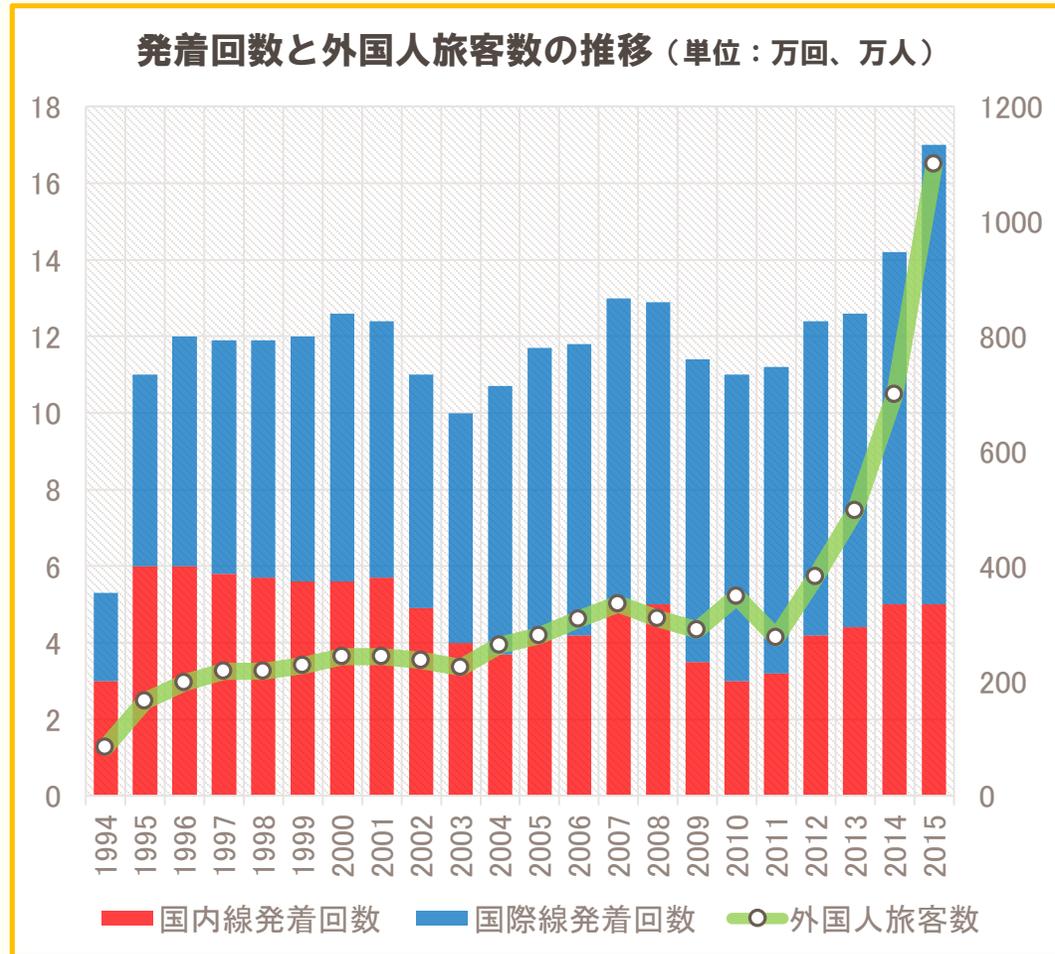
東日本大震災

年度	訓練対象	参加者数	主な訓練内容	災害想定
H20	旧26号線以西が対象	200名	避難訓練、炊き出しなど	東南海・南海
H21	加茂小学校区7自主防災組織	300名	避難訓練、AEDなど	上町断層
H22	東羽衣小学校区6自主防災組織	250名	避難訓練、安否確認訓練など	上町断層
H23	第1回訓練（全市民）/津波を想定	7,941名	津波避難ビルへの避難訓練など	東南海・南海
	【課題と改善】防災行政無線（27→47）、災害時要援護者リスト、防災まちづくり勉強会など			
H24	第2回訓練/より実践的に水平避難	3,257名	防災無線の検証、要支援者リストの活用など	東南海・南海
	【課題と改善】若い世代の参加促進、防災教育講演会（学生中心）、防災シンポ、要支援者リスト者の低避難率			
H25	第3回訓練/高石版釜石の奇跡	13,317名	隣接の高校などが幼稚園児童を避難誘導	東南海・南海
	【課題と改善】取石小学校区で津波避難をする意義がない、区域ごとの避難訓練の検討、津波避難タワー			
H26	第4回訓練/海溝型と直下型の同時実施	13,188名	災害時の火災への対処、意見交換会	東南海・南海/上町断層
	【課題と改善】体育館で避難所を想定した訓練を、高砂1号線の液状化対策など			
H27	第5回訓練/自主防と中学生の共働	13,478名	カモンたかいし、取石小体育館での避難所訓練	東南海・南海/上町断層
	【課題と改善】避難所運営に対する住民連携の重要性			
H28	第6回訓練/避難後のトリアージ	12,099名	避難行動要支援者プランの策定など	東南海・南海/上町断層

## 2. インバウンドについて ①現状

政策推進 & 総務

### ■ 関西空港の活況ぶり



## 2. インバウンドについて ②取り組み

政策推進 & 総務

### ■ 国の取り組み

魅力ある公的施設・インフラの大胆な公開・開放／滞在型農山漁村の確立・形成／伝統工芸品等の消費拡大／広域観光周遊ルートの世界水準への改善／民泊サービスへの対応／MICE誘致の促進／訪日教育旅行の活性化／革新的な出入国審査の実現／キャッシュレス環境の飛躍的改善／Wi-Fi環境の飛躍的向上／外国人患者受入体制の充実／複数空港の一体運営・LCC就航促進／クルーズ船受入の拡充／ビザ（中国・フィリピン・ベトナム・インド・ロシア）の緩和

### ■ 泉州の取り組み

泉州版DMOの創設 / クルーズ船の誘致(堺)  
「ツール・ド・泉州」構想 / スポーツリズムの確立  
農業体験リズムの推進 / 泉州国際市民マラソンの充実  
魅力的なイベントの開催 / 工場夜景ツアーの発展（高石）  
史跡などの観光ルートの確立 etc

### ■ 意外な観光資源（SNS分析より）

好古園（錦鯉目当て）@兵庫  
嵐山モンキーパーク（ニホンザル）@京都  
くらしの今昔館（浴衣レンタル）@大阪  
インスタントラーメン発明記念館（体験）@大阪  
黒潮市場（マグロの解体ショー）@和歌山  
友ヶ島（ラピュタのような街並み）@和歌山

### 3. 市民参画について

- 高石市が取り組む「市民参画」
  1. 自治会活動への支援
  2. アダプト（道路等の清掃活動支援）
  3. NPO法人への支援

ほとんど何もやってない  
に等しい(苦笑)

「新たな公共」が叫ばれて久しい時代・・・

市民力を活用する取り組みを展開しないと、パンクしてしまう。



- ✓ コミュニティカフェの充実
- ✓ ソーシャルビジネスの誘致
- ✓ 公民館機能のレベルアップ
- ✓ 学校を活かした参画拠点づくり
- ✓ 有識者会議への積極的な登用など

## 4. 人口問題について ①現状

政策推進 & 総務

### ■ 日本の人口

「自然増減(出生死亡)」

→10年連続の減少、減少幅も年々拡大

「社会増減(転入転出)」

→日本人は2000人減少、外国人は4000人増加 (4年連続)

### ■ 大阪の人口

7都県で人口増加↑、40道府県で人口減少↓

大阪は「自然減少・社会増加」

大阪市内・北大阪は減少がゆるやか、続いて泉州、南河内の減少率をもっとも高い。

高石市は泉州のなかで、減少率が比較的高い。

### ■ 高石の人口

減少幅が年々減少！

全国でも人口が減少している大阪府のなかでも、泉州の人口が減少している。

そのなかでも、高石市は比較的低い位置に。

年度	減少率	府内順位	泉州順位	備考
H22	-0.37%	24位	7位	
H23	-1.02%	33位	9位	府下ワースト1
H24	-0.59%	24位	7位	
H25	-0.49%	23位	7位	
H26	-1.05%	32位	9位	泉州ワースト1
H27	-0.31%	13位	2位	
H28	-0.01%	8位	1位	人口戦略スタート

## 4. 人口問題について ②市が取り組み始めたこと

政策推進 & 総務

### ◎ 子どもを産み育てやすい環境づくり

- 子育て世代ウェルカムステーション  
アプライン館者数：35万人(H26)→43万人(H31)
- 妊産婦検診  
受診件数：5303人(H26)→7000人(H31)
- 結婚への意識向上  
婚姻率：4.9件(H26)→5.6件(H31)
- 病児保育サービス  
利用者数：700人(H31)

### ◎ 働きやすい環境づくり

- 市内企業と就職希望者のマッチング  
50人※累積（～H31）
- 創業支援  
50件※累積（～H31）
- 企業立地促進条例の充実  
H29年4月より改正

### ◎ 健幸にすごせる環境づくり

- 健幸づくり事業の充実  
ウォーキング参加者数：9504人(H26)→45000人(H31)  
健幸づくり教室：1300人（H26）→3300人（H31）
- 福祉バスの乗客数  
43626人(H26)→66000人(H31)
- コミュニティカフェの整備  
51件（～H31）

### ◎ 住みたくなる環境づくり

- 転入者数：1051人(H26)→1250人(H31)
- 少人数教育の促進  
H31までに学力平均を大阪府より上回る
- 空き家バンク制度の利用促進  
20件（～H31）
- 子育て世帯への住宅支援  
65人（～H31）

## 5. ゴミの収集について

政策推進 & 総務

### ■ ゴミを取り巻く環境 ※日本全体の平均値

埋め立て地の数 = 約1800か所 (東京ドーム  
371個分)

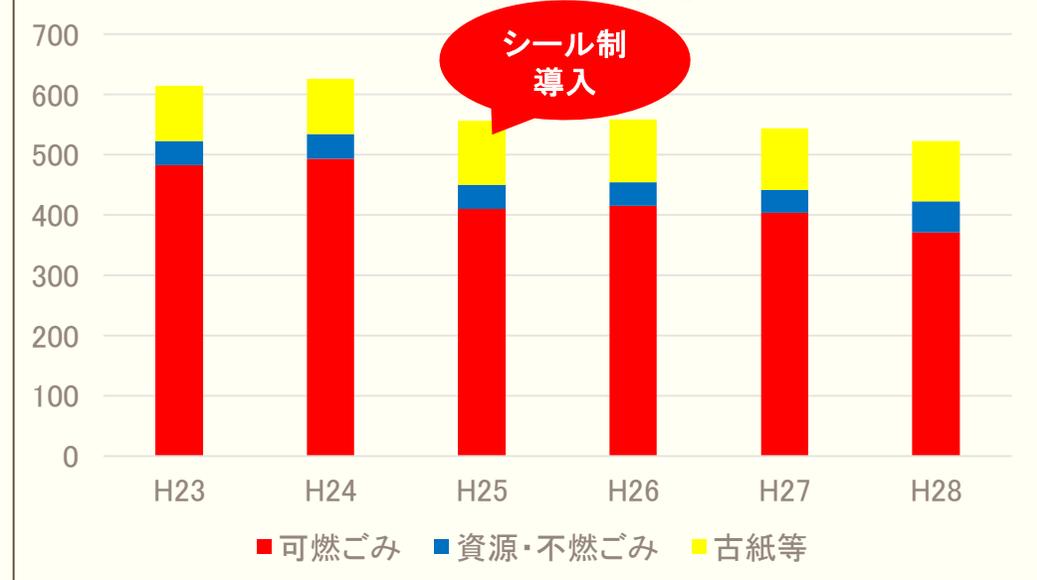
埋め立て残余量 =  $0.9\text{m}^3/\text{人}$  (お風呂)

1日のゴミ排出量 =  $1\text{kg}/\text{人}$

焼却(7~8割) : リサイクル(2割)

ゴミ処理にかかるお金 =  $14,000\text{円}/\text{人}\cdot\text{年}$

### 高石市のゴミの実績(g/人・日)



可燃ごみ→ゴミ一部有料化(H25)より**減少傾向**  
不燃ごみ→横ばい ※廃プラで増加傾向  
古紙等→ゴミ一部有料化(H25)より**増加傾向**

## 6. 道路と河川について ①全体図

土木



## 6. 道路と河川について ②それぞれのポイント

土木

### ■ 南海中央線

交差点の r 状の縁石が危険、延伸部分、  
せせらぎの失敗、どこまで延長するのか？

### ■ 高石北線

信号機や横断歩道の設置

### ■ 取石418号線

小学生が安全とはいえないうり道を通り抜けている、  
残り2件の用地買収が頓挫

### ■ 富木線

踏切の閉設、まちづくり協議会での意見集約

### ■ 区画整理

反対運動、塩漬けの土地、まちづくり勉強会

### ■ 芦田川

氾濫の可能性、ウォーキングロードの整備

### ■ 新村北線

交差点の信号機増設、幼稚園前の横断歩道の設置

## 7. 駅周辺の活性化について ①高石駅と富木駅

土木

### ■ 高石駅

- ◎ 駅西地区の区画整理⇒地域の反対もあり長年停滞…
- ・平成25年度からまちづくり協議会が再始動→平成27年に地域住民参加型の「まちづくり説明会」開催→まちづくり勉強会の定期開催
- ・消防活動困難区域の解消、人口減少対策  
→当該地域の方向性を構築
- ・都市計画決定されている高石南線の拡幅  
⇒拡幅に伴う立ち退き件数の多さがネック？
- ◎ 駅東地区
- ・高石の玄関口として相応しい景観へ  
→多数の駐輪、ロータリーのあり方について検討  
⇒駅前広場の有効活用

### ■ 富木駅

- ・取石地区の整備⇒非常に遅れている  
→公共投資の比重は「西高東低」に感じる
- ◎ 最重要課題 『富木駅の北一番踏切の拡幅』  
→JRとの協議が整うか否か  
→富木中央線（都市計画決定済）の事業化に対し物理的障害
- ・踏切拡幅の早期実現→富木駅から国道26号線に向け一方通行になっている当該道路の拡幅実現→対面通行可能な道路へ
- ・富木駅東側の整備の実施

## 7. 駅周辺の活性化について ②羽衣駅と駅前再開発

土木

### ■ 羽衣駅

#### ◎再開発事業

- ・平成28年度より再開発事業開始

→平成30年度春完成予定

- ・駅西側にてビジネスホテルの建設

⇒工事の順調な進行に期待（安全対策に留意）

### ■ 北ヤード

- ・売却は一旦休止

→現状、駐輪場の代替地等の利用

⇒活用について近隣住民を巻き込んだ検討が必要

### ■ 羽衣駅周辺の今後

#### ①羽衣駅周辺のまちづくりのビジョンや構想の必要性

- ◎文教都市としてのまちづくり

羽衣地域にあった良質なイメージに伴った空間を形成

→近隣の高校・大学・専門学校を生かす

#### ②駐車場・駐輪場の整備

- ◎約2万人/日を利用する急行停車駅  
乗降客のニーズに合った駐輪場等インフラ整備が不可欠  
→現状駐輪場は一部で不足 + 羽衣駅西側の第一駐  
輪場・駅東側の第二駐輪場が閉鎖  
= 高架下の駐輪場が必要

- ◎駐車場の設置  
現実的には高石市には有用な土地がない  
→羽衣駅周辺で民間活力を促す必要性あり

## 8. 校区編成（線路の高架化など）

土木

### 現状の課題

- 現在の校区は40年以上大幅な編成はなされていない
- 自治会内で複数の学校に通っている子供が存在する
- 近くに学校があるのにより遠い方へ通わなければならない
- 進学時に友達と離れてしまう

### 高志会の提案

- 校区編成について要望→未着手
  - ◎ 今後、南海本線の高架化・都市計画道路の延伸  
→高石市内の道路携帯、地図が大幅に変更  
⇒この機に校区も抜本的に編成  
= 現時点からの検討の必要性を指摘
  - ◎ 住民・保護者の意見聴取、通学路の危険性抽出、  
各学校における問題点の確認  
→調査研究・早期検討の必要性を指摘

## 9. 子供達の居場所について（公園の整備など）

土木

### ■ 公園や放課後

#### ◎ 公園

- ・「ボール遊び禁止」と書かれた窮屈な看板
- ・変質者による気味の悪い事件の増加
- ・気軽に家の中でも遊べない家庭環境の変化

→子供達が元気に自由に泥だらけになって、そして時にはケンカもしながら安全に遊べる環境は学校だけ…

#### ◎ 学校

- ・「全ての子ども達が」遊べるわけではない（右記参照）

→学校による差や家庭環境による差を解消する必要

⇒学校の放課後を子供達に返す！

### ■ 学童保育と放課後子ども教室

- ◎ 学童保育 「保育を必要とする子ども達」で、共働き世帯の子ども達のみ登録可
- ◎ 放課後子ども教室 どちらかの親が働いていない世帯の子ども達も登録可→週1～2回実施

⇒学童保育と放課後子ども教室の一体運営  
＝「全ての子どもが毎日」校庭を自由に使って遊べる環境を整備

#### 現状の課題↓

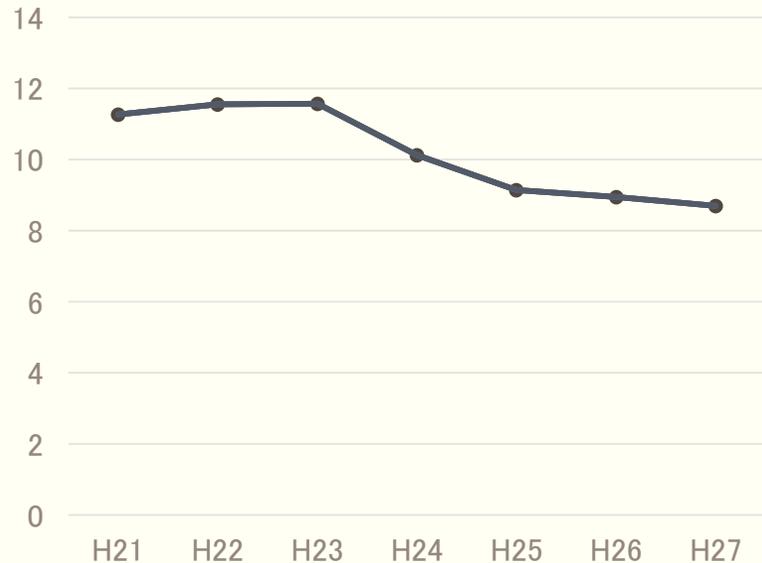
- 1. 利用料金の問題…学童は月額6,000円、放課後子ども教室は年間800円（保険代のみ）
- 2. 場所の問題…児童が増えた場合の余裕教室がない
- 3. 縦割りの問題…学童保育は「生活の場」だから厚生労働省、放課後子ども教室は文部科学省。
- 4. 人の問題…学童はプロの指導員と元校長先生の囑託で運営。放課後子ども教室は地域のボランティア。

# 10. 医療費について ①国民健康保険が高くないか？

- 国民健康保険のお金の仕組み
  - 払える人が少なく、払う対象が多い
  - 借金は実質9億円（来年から借りている前借り状態）
  - 医療費ランキング…府下 4位
  - 保険料ランキング…府下 5位
  - もうすぐ広域化へ

- 高志会からの要望
  - 法定外繰入の実施 → 導入済み
  - 滞納対策
  - 健康増進（医療費の抑制）
  - 府からのお金を増やす（徴収実績の向上など）

国保の繰上充用金（億円）



収入	支出
みんなの保険料	総務費
国からのお金	医療費
65~74歳の負担	75歳~へ払うお金
被用者保険からのお金	社保との調整枠
府からのお金	介護保険へ支払うお金
高額医療などの調整分	高額医療などの調整分
繰入金	保健事業
その他の収入	その他の支出

# 10. 医療費について ②こども医療費を上げて欲しい！

福祉

## ■ 府下ランキング

こども医療費助成 府内状況  
(H29年4月現在)

18歳到達年度末 5自治体

中学校卒業年度 31自治体

小学校卒業年度 7自治体 (高石市)

## ■ 状況

高石市の乳幼児医療費助成は通院が小学校卒業まで。大阪府下の自治体の多くは中学校卒業までが多くなっている。

子育て世代からすれば必要にみえるが、小児科の負担が増加すること、必要性の乏しい受診行動を起こす住民が増えることで総医療費の増につながるものが危惧すべきこと。

行政試算によると、高石市ではこども医療費補助が1学年伸びれば、約1000万の行政負担が毎年必要となる。

# 1 1. 生活保護について

## ■ 高石市における生活保護の不正受給額

	件数	金額
平成24年度	7件	275万7,716円
平成25年度	6件	116万9,510円
平成26年度	7件	253万9,671円
平成27年度	6件	40万0,603円
平成28年度	14件	320万6,797円

## ■ 生活保護世帯の支給額

生活保護の平成29年度の国家予算：2兆8800億。高石市の予算：18億3106万（平成29年度一般会計予算244億の7%程度に相当）と財政圧迫の遠因となっている。

生活保護受給世帯654世帯。受給人数905人

医療費が8億5000万と生活保護費の約50%を占める。

65歳単身者の国民年金支給	6万5542円	最低賃金	1時間/883円
生活保護基準額	11万5370円	小中学生1人ずついる母子家庭の生活保護基準額	26万
差 額	49828円	差 額	.....

## 1 2. 高齢者福祉について ①福祉バス

福祉

### ■ 福祉バス

平成29年8月1日より、高石市内を巡回する福祉バス「らくらく号」が新しくなり、2台運行から3台運行に拡充され、1日5便から7便に増便された。

3台体制になり、1日の利用者が180人→300人程度の増加した。

しかし、片方のルートしかない。座席が少なかったとのご指摘も頂いています。



# 1 2. 高齢者福祉について ②介護サービスについて

福祉

	①訪問介護 (現行相当サービス)	②訪問型サービスA(緩和した基準によるサービス)	③訪問型サービスB(住民主体による支援)	④訪問型サービスC(短期集中予防サービス)
サービスの内容	訪問介護員による身体介護、生活援助サービス提供	訪問介護員等(一定の研修受講者を含む)による生活援助サービス提供	住民主体の自主活動として行う生活援助等	市の保健師等による訪問指導
実施方法	指定事業者(みなし指定事業者及びH27年4月以降の指定事業者)	指定事業者または委託	補助(助成)	未定
サービス提供者	訪問介護事業者の従事者	主に雇用労働者	ボランティア主体	未定
利用者負担額	原則1割負担(一定所得以上は2割)	原則1割負担(一定所得以上は2割)	—	未定
対象者	身体機能や認知機能の低下がみられ、専門的な支援が必要な方	①ほどではないが、本人や家族が家事等を行うことが難しい方		身体機能の低下がみられるが、短期集中的支援により改善が見込まれる方

## 介護予防・生活支援サービス事業(訪問型概要)

- 平成29年4月から総合型介護予防事業が施行。
- 市民がボランティアで出張し、介護予防体操など定期的に行っている。そのような輪を広げ、より健康な社会を目指すために市民主体の介護予防活動(通所型B)に対し予算化することを要望。
- SWCとの連携も密にし、健康意識を高め、医療費・介護給付費等の縮減に努めるよう要望

# 13. いじめと道徳

右表のようにいじめがゼロということは非常に難しく、ゼロということは教師が見逃している可能性が非常に高いと言える。

高石市は市独自のいじめ防止基本方針に基づいていじめ問題に取り組んでいる。今年3月国の方針改定により、からかいなどの従前はいじめとはに認識されていなかった事例も伊島に発展する可能性があるとして認識し、30日間は経過を見守るよう通達されている。

いじめが多い学校イコール評価が悪い学校という価値観が見直されいじめ解消数の方が重視されるようになった。何でもかんでもいじめと認識し解消するという問題点もあるが早期発見、対処は非常に重要である。

学年	小学校						中学校			合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	
H23	0	0	0	0	0	0	4	0	0	4
H24	0	0	0	1	3	3	8	3	0	18
H25	0	0	2	1	3	1	1	6	2	16
H26	0	0	1	1	3	3	5	0	0	13
H27	0	0	0	1	1	3	7	8	1	21
H28	7	5	10	7	8	8	5	4	0	54

※H28より「友人間のトラブル」も含まれている

# 14. 子育て施策について ①施設の事例

## 現状の施設

### ■子育てウェルカムステーション

平成28年12月にアプラ3階ハグッドがオープンし、3000人/月利用されている。



## 高志会の提案

4階の図書館とも連携し、より市民の憩いの場所へと進化させることを要望。一時預かりに関しては20/月平均の利用者数ということから、人件費等の費用対効果をよく精査して取り組むよう要望。

### ■母子センター

全国で唯一の公立助産所であるが同センターが一体どういう施設なのか知らない市民が多い。



母子センターが自然なお産ができる施設であることの啓発、母親になる前の心構えや最低限の知識を会得できるなど、産前産後子育てまでのワンストップ施設であることを普及促進していくべき。

### ■公立幼稚園

平成31年から1園に集約される。



公立幼稚園での3歳児保育の実施、長期休暇での預かり保育の実施。1園集約された公立幼稚園を存続させていくために現場職員、保護者との信頼関係の構築を要望。

# 14. 子育て施策について ②具体的事例の紹介

教育

## 現状の施設

### ■午睡について(保育園の場合)

現在保育所では昼食後午睡の時間が設けられている。全員午睡をしなければならない。



## 高志会の提案

午睡をしてしまうと夜になかなか寝付けない子供など、様々な子供、それぞれの家庭事情がある中、午睡時間の午睡を選択制にすることを要望。

### ■あおぞらのお菓子について(学童保育の場合)

小学校のあおぞら児童会でお菓子代を徴収してお菓子が配られている。



家庭によってはお菓子を食べさせていないところも存在する。食育という観点からもお菓子代を徴収してお菓子を配ることは必要でない。

# 15. 校区編成（区割りなど）

## 現状の課題

- 現在の校区は40年以上大幅な編成はなされていない。
- 一つの自治会内で複数の学校に通っている子供が存在する。
- 近くに学校があるのにより遠い方へ通わなければならない。
- 進学時に友達と離れてしまう。

## 高志会の提案

- 校区編成について再三再度要望してきたが未だ手付かず。今後南海本線の高架化、都市計画道路が延伸されることから高石市内の道路携帯、地図が大幅に変わる。これ契機に校区も抜本的に編成するため、現時点から検討を進めるよう要望。
- 住民、保護者、通学路の危険性、各学校における問題点など調査研究し早期に検討実施することを要望。

# 16. 子供達の居場所について（放課後など）

教育

## 現状の課題

- 小学生は子供だけで校区外へ遊びに行くことが禁じられている。そのことから各小学校区において遊びの内容も限られる。小さな公園ではボール遊びが禁止なためボールを使った遊びができない。
- 学校では、共働きやひとり親世帯の子供達しか利用できない学童保育や、どちらかの親しか働いていない世帯の子供は週1~2回行われている放課後子ども教室に登録ができる。すべての子どもが毎日校庭で自由に遊べる環境ではない。
- コミュニケーション能力を身につけるためには子供の遊びは非常に重要である。

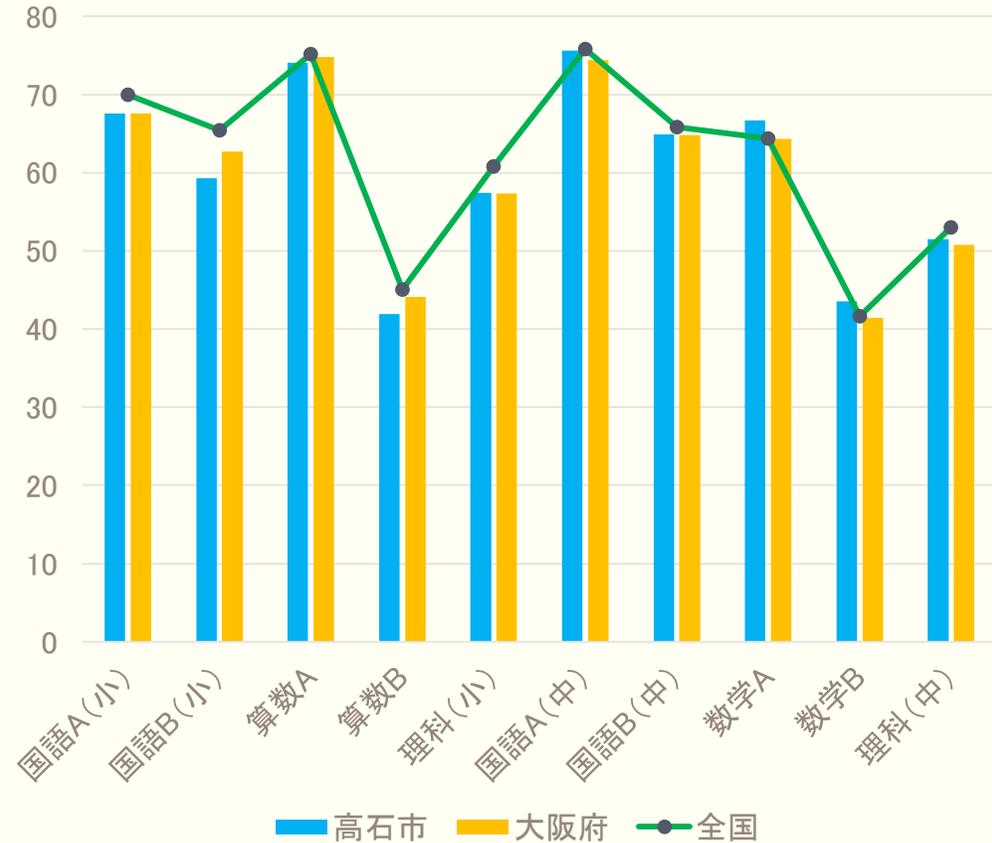
## 高志会の提案

- 他市の先進的な取り組みを調査研究のうえ進めていくことを要望。
- 全てのリスクから子供達を守るといふことが行きすぎてしまって、子供達を窮屈にし、育成に大きな影響を与えている。悪いことをしたら謝る、困ったことがあれば助け合うなどのコミュニケーション能力の形成、自分たちで遊びを考える発想力を身につける。子供達同士で遊ぶことは教育の面からも重要である。
- 大人の都合で子供達の成長を妨げないよう、学校の放課後を子供達に返してあげることを要望。

# 17. 教育力の向上について

- 校舎の耐震化、ICT環境の整備、エアコンの設置、中学校給食などハード面の整備を進めてきた。小学校の外国語に関しては教育課程特例この指定を受け、小学校1年生から外国語学習に取り組んでいる。しかしながら、学力に関しては府や国の平均を下回って多い年度が多い。
- 宿題を忘れがちな子供、習熟度の遅い子供には補習を受けることができる環境を整えてあげること。他市に先行して土曜日事業の実施など、公立学校での教育で十分な学力が維持できる取り組みを要望する。

H27 全国学力・学習状況調査



人口減少対策を中心とした雇用・イメージ戦略・景観などの分析と課題抽出が主となる議論となった。

## 雇用

臨海企業が雇用を大きく支えているが、経済システムや国際市場が大きく転換する可能性が高いため、数十年先を見据えると、依存体質ではいけない。  
そもそも、生活観が多様化しているため、従来のような職住近接や通勤定期券階層のみのターゲティングでは有用な政策を打てない。  
市域を越えた広域的な視野で雇用の確保や企業立地等に努める必要がある。

## イメージ戦略

周辺の自治体においても、人口減少対策として「子育て」「教育」という戦略を志向しており、このままでは差別化が図れない。  
今後、問われるのは着飾ったイメージを対外に発信するのではなく、内実ともに充実させていく必要がある。すなわち、住民満足度を高めることで広がるイメージ戦略である。そのためには、住民を参画させることや協働のまちづくりが欠かせない。

## 景観

住宅地の緑視率、公園の衛生状態、道路のゴミや不法投棄、樹木剪定などの街路樹の管理状態、悪質な落書きなど、街のイメージは景観に反映され、それによる与えられる印象は、良くも悪くも住民にとって根強く植え付けられる。  
街路や河川等の緑化推進、公園が清潔に保たれている状態の維持など、管理する者がその状態をきめ細かく注視し、適宜、清掃や修繕の対応をおこなう必要がある。

## 駅周辺の活性化について (市内主要3駅に関する意見)

### □ 高石駅東側→駅前広場の有効活用

- ・**駐輪場の整備**を行い、本来の**広場としての機能**を充実させる

→子供の遊び場、イベントの開催 等

- ・その他

→パチンコ店の煙草の**煙が外部へ出てくる**のを改善してほしい

→飲食店の拡充

### □ 高石駅西側→再開発の早期実現 (高石南線の**拡幅の必要性の再検討含む**)

### □ 富木駅→**北踏切の拡幅**

### □ 羽衣駅

- ・再開発と東羽衣駅の接続

- ・その他

→再開発ビル内に住民票等の発行が出来る**窓口の整備**

→駅周辺に**外で飲めるカフェ**

## □福祉バスを1台追加の提案

平成29年8月1日より、高石市内を巡回する福祉バス「らくらく号」が新しくなり、2台運行から3台運行に拡充され、1日5便から7便に増便された。

しかしながら、「**乗り換えが不便**」「**片方のルートしか運行しない**」「**老人福祉センターを回る場合一便では回れない**」など、以前に比べて不便になったという指摘もある。

そこで、**3ルートのバスにもう一台を配置**し、以前の福祉バスのように**高石市全域を回る便を増やす**ことを要望する。

また、市をまたいでの運行、高齢者や障害者、妊婦の方以外の現役世代の人でも利用できるよう要望する。

## □医療費について

高石市の乳幼児医療費は通院が小学校卒業まで、入院が中学校卒業までとなっているが、大阪府下の多くの自治体は、通院・入院とも中学校卒業までとする自治体が増えている。前のスライドのように、高石市は医療助成は、他市から大きく遅れている。

そこで、**義務教育の中学生卒業年度まで**の医療費助成を要望する。

また、医療費抑制の観点からも、ジェネリック医薬品をより推奨していくことを要望する。

## □図書館のあり方について

**静かにしなければいけない場所**というイメージが定着していて敷居が高く子供づれで気軽に利用しにくい。

子供から高齢者まで気軽に立ち寄ることができる場所、これまでの図書館のイメージを変え、賑わいのある場所へと**従来の図書館が抱かせるイメージを一転させる**必要がある。

例えば・・・

**おしゃべりのできる図書館**。コミュニケーションを図れる場として子供が様々な世代の大人と交流ができる場作り。乳児が泣いても、幼児が笑っても、迷惑がられない雰囲気作り。

**自習等ができる机、椅子の増設**。中高生や大学生が「自習禁止」という案内に気を使うことなく、自学に取り組むことのできる設え。

**視聴覚室の自由解放**。・・・